

市場規律と追い貸し

鹿児島大学 永田邦和

市場規律とは、銀行に対する金融市場からの規律付けである。市場規律は、市場の監視能力と市場の影響力から構成されている。市場の監視能力とは、市場が銀行の経営状態を評価し、その評価を速やかに価格や利回りに反映させることである。市場の影響力とは、市場価格の下落や利回りの上昇に対して、銀行が経営状態を改善することである。

日本の金融市場の影響力に関する先行研究では、預金市場を単独で取り上げることが多い。ある市場を単独で分析する場合、その市場が銀行に影響していなくても、他の市場が銀行を規律付けしていれば、その市場の影響力が機能しているという結果が得られてしまう。市場の影響力を正確に評価するためには、銀行を規律付けする市場を可能な限り説明変数に加える必要がある。そこで、本稿では、日本のデータを用いて、預金市場やCD市場、コール市場、株式市場も対象とし、1990年代に、これらの市場が銀行の追い貸し（不良業種貸出）を抑制したかどうかを検証し、日本の金融市場の影響力が機能しているかどうかを明らかにする。さらに、本稿では、動学パネル分析による推定も行う。動学パネル分析は、静学パネル分析と異なり、被説明変数のラグ付き変数を説明変数に加えており、銀行の貸出行動を動学的にとらえることができる。

本稿の分析結果は、以下の通りである。1990年代には、預金市場は銀行の追い貸しを抑制しており、預金市場の影響力が機能していた。一方、CD市場やコール市場は銀行の追い貸しを抑制していなかった。株式市場の影響力が機能していることも強く示されなかった。本稿では、動学パネル分析による推定も行った。動学パネル分析では、貸出を瞬時に中断できないような状況を考慮できるが、そのような状況でも、預金市場は追い貸しを抑制していることが示された。